



消防スケッチ最優秀賞 立花小学校 酒見 聡一郎 さんの作品  
(令和6年度は伊万里市内の8校353名の参加がありました)

2025年3月発行

# 防火作文集

防火作文の作品集は火災予防啓発の一環として、市内の各小学校へ配布しています。今回は伊万里市内の**11**校から4年生児童**297**名の応募がありました。この文集はその作品の中から選出された入賞作品**16**点（最優秀賞1点・優秀賞5点・優良賞10点）を掲載しています。

今後も、小学4年生を対象に募集しますのでたくさんのご応募お待ちしております。

目次

【最優秀賞】

- ・ 大切な毎日を守るために

二里小学校

吉永穂花

……  
……  
……  
1

【優秀賞】

- ・ 火事を防ぐためにできること
- ・ 冬の火災を防ぐには
- ・ ろうそくの火
- ・ 火事を起こさないためには
- ・ 自分自身、みんなの命を守るため

大坪小学校  
立花小学校  
大川内小学校  
松浦小学校  
東山代小学校

池田あこ  
松尾泰軌  
古川碧泉  
濱野楓夏  
古子那

……  
……  
……  
……  
……  
6

【優良賞】

- ・ 火事にそなえるために
- ・ こわい火じ
- ・ たくさんの物をなくす火事
- ・ ぼくの地いきの消ぼう団
- ・ 火事を防ぐためにぼくにできること
- ・ 火事のおそろしき
- ・ 防火についてぼくが考えたこと
- ・ 消し忘れでおこる火事
- ・ ぼくのかっこいいおとうさん
- ・ 「火の用心!!!」

牧島小学校  
大坪小学校  
大坪小学校  
立花小学校  
立花小学校  
波多津小学校  
二里小学校  
東山代小学校  
山代東小学校  
山代西小学校

田中一路  
梶山頼臣  
田中優羽  
川崎心翔  
奥野凜仁  
野波咲那  
佐藤駿介  
武藤麗水  
田中淳也  
高木聖

……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
16



## 〔最優秀賞〕

### 大切な毎日を守るために

二里小学校 吉永 穂花

「ウーカンカンカン、ウーカンカンカン」冬休みの間、火災のサイレン音を何回か耳にしました。私が、保育園児のころとなりの家が火事になり、全てもえ数時間後には、真っ黒い柱だけが残っていました。火事の前には笑って食事をとり、安心してねることができ、あたりまえにできていた場所が、火事の後は、大切な思い出や家族が安心して生活できる空間が一しゅんにしてなくなり、こわいなど感じました。

四年生になった私は、なぜ火事が起こるのかを考えてみました。原因には、火を消し忘れてたり、ストーブに洗たく物が引火してしまうことがあります。またコンセントにホコリがたまったり、タコ足配線で、コンセントから火が発生してしまうことがあるそうです。冬になると空気がかんそうしてしまい、小さな火種と少しの風で大きな火事になる危険もあることがわかりました。

火事を防ぐために私ができる事は、バーベキューや花火をする

ときは、火の消しわすれがないかを確認することや、タコ足配線になっていないかを確認することが大切だと考えます。他には、小さな火でも残ったときは、その火のそばからは絶対にはなれず、目をはなさないようにすることです。ストーブの近くに洗たく物をほすと、火が引火してしまう危険があります。ストーブの近くに洗たく物を置かず、ストーブよりすこしはなれた場所に置いて、引火しないようにしておくことが大切だと思います。自分の家やおばあちゃん家でタコ足配線やコンセントの周りのホコリを発見したら、大人にすぐに知らせ対さくしてもらおうようにします。火事は大切な物をなくし、大切な人の命まで危険にってしまうことを分かって、毎日を過ごしていきたいです。



## 〔優秀賞〕

### 火事を防ぐためにできること

大坪小学校 池田 あこ

私が出才のときに起きたことです。私は、家族と友達とわいわい楽しく花火で遊んでいました。その時、私はサンダルをはいていて花火を体の近くに持つてきました。すると、花火が足に落ち、やけどをして大泣きし、みんなが心配してくれました。なぜやけどをしたのかふり返ってみると、足が見えるサンダルをはいていたことや、花火の正しい持ち方をしていなかったことが原因でした。サンダルではなくくつをはいて、花火は体に近付けないようにしたら、やけどをしなかったと思いました。

他にも、花火をしているときに気づいたことがあります。それは、火がつくのはいつしゅんだけど、火を消すのにはたくさんの時間が必要になるということです。そう考えたのは、火が水ではかんたんに消せないからです。

たったいつしゅんの行動で、建物やふつうのくらしが全部なくなってしまう。そう考えると、一人一人の行動が大切だと

いうことが分かりました。では、具体的にどのようなことに気をつければよいのか調べてみました。

例えば、コンセントをさしっぱなしにしないことや、ヒーターの前に洋服などをおかないことで火事を防ぐことができます。また、やけどをしたけいけんから、火の扱い方を覚えて火を使つたほうが、火事になりにくく安全だということが分かりました。火は、いろいろな役わりがあり、とても便利なものです。しかし、一歩使い方をまちがえると、大切なものや人の命までうばつてしまうおそろしいものだと思います。この作文でしかいしたことるを今後活かし、火事が少しでも防げるような行動をしていきたいです。



## 〔優秀賞〕

# 冬の火災を防ぐには

立花小学校 松尾 泰軌

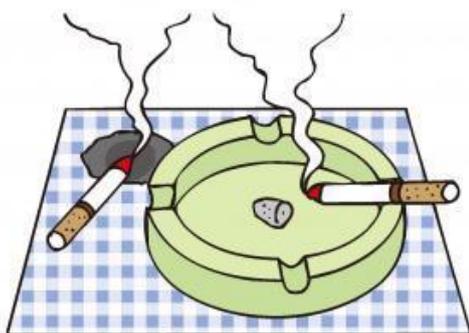
ぼくは、冬休みにテレビで火事のニュースをいくつか見ました。その中で冬は火事が増えるということを知りました。そこで、冬の火災について詳しく調べることにしました。

冬に火災が発生しやすい理由は、大きく二つあることがわかりました。まず一つ目は、「空気が乾燥しているから」です。空気が乾燥すると、木材でできた建物や家具も乾燥して引火しやすくなります。特に風の強い日はちよつとした火の気でも大きな火事につながってしまいます。そして二つ目は、「暖房機器などの火を使用する機会が増えるから」です。火を扱うが増えると火災のリスクも高まります。冬場の火の取り扱いには十分に注意する必要があります。

冬に多い火災を防ぐためにはどうしたらいいのかを考えてみました。建物火災の出火の原因で最も多いのは「たばこの不始末」だそうです。これは、ポイ捨てせずに決まった場所で消火し、

消えたことをきちんと確認することで防げます。そして、料理中のコンロの消し忘れも多い出火原因の一つです。これは、短時間でもコンロから離れる時は火を消したり、コンロの近くに燃えやすい物を置かないように注意することで防げます。他にも様々な原因がありますが、その中でぼく自身が気になったのは、電子機器の配線です。家の中を見渡してみると、つなげっぱなしのたくさんのコンセントがありました。コンセント周りは定期的に清掃したり、一箇所に集中しないように分配したりすることが大切なので、やってみようと思います。

僕たちの生活には「火」が必要です。当たり前のように使っていますが、一歩間違えると大きな火災を招くことにもつながります。今回防火について調べて、原因と対策を知ることができたので、火災を起こさないように気をつけていきたいです。



## 〔優秀賞〕

### ろうそくの火

大川内小学校 古川 碧泉

「チーン」

「明けましておめでとうございます。今年も一年間よろしくおねがいます。」

私の家では元旦の朝、家族みんなで線香をあげて仏様に手を合わせ、新年がスタートします。お仏壇にあるろうそくの火はまっすぐにのびていて、部屋中に線香のやさしいけむりといにおいがただよって、いつもとはちがう静かできれいな空気が流れているような気がします。私は自分の体や心もすーっときれいになったような感じがするので、お正月の家族みんなでするお参りが好きです。

私たちの後にも、お客さんのいとこ達や親せきも仏様にお参りをしました。すると、むかし消防士をしていたおじさんに、「ろうそくに火を着けるときは大人の人と一緒に時だけだよ。子供達だけではいけないよ。」

と言われました。ろうそくをたおしたり、消し忘れたりすることが火事の原因になるということを、おじさんは教えてくれました。ろうそくの火は小さくてきれいに見えるけれど、一度他のものに燃え移ってしまうと、あつという間に大きくなって大事なものをすべて燃やしてしまうそうです。おじさんはそんな悲しい火事を何度も見てきたと言っていました。

私はその話を聞いて火がとても怖くなりました。そして私のまわりで火事が起きて大切なものがなくなることを想像したら、とても悲しい気持ちになりました。だから絶対に火事は起こしたくありません。

でも、バースデーケーキのろうそくや、花火やバーベキューなど楽しい時にはいつも火を使います。だから火もないと困ります。私は今回、「火」はきれいで便利なものだけど、あつかいをまちがえると「おそろしい火」になることを知りました。火を使う時は、必ず大人の人と一緒に時だけにして、しっかりとあつかいに注意をしようと思います。



## 〔優秀賞〕

### 火事を起こさないためには

松浦小学校 濱野 楓夏

わたしは、火事を起こさないためには、日じよう生活の中で小さな心がけが大切だと思います。小さな心がけとは、料理をする時は火のそばからはなれないようにしたり、はなれる前に火を消したことを確にんしたりすることです。

佐賀県内での火事の原因を調べると、一番多いのは、草をもやす「原やき」で、二番目は、ごみや草を集めてもやす「たき火」で、三番目は、たばこの不始末でした。ひとりひとりが小さな心がけをして気をつけていればこの三つが原因の火事はへらせるのではないかなと思いました。

一年間の中で、一番火事が起きやすい時期を調べると、三月から五月が多いことがわかりました。ストーブやこたつなどを使うのは冬が多いのですが、春が多いことにおどろきました。

わたしは、電気ヒーターを消しわすれていたことがあります。ヒーターの周りにもえる物がなかったから火事にはならなかつ

たけど、もしかしたら火事になっていたかもしれないと思うとこわくなりました。でもそのけい験から、ヒーターを消したか確にんすることを意識するようになりました。ストーブやこたつなど身近にあるもので火事が起きます。だから、家族みんなでもいつも小さな心がけをして、火事を防ぎたいです。

それでも火事が起きたときのために、学校のひなん訓練に真けんに取り組むことや、消火器が使えるかどうか見ておくことを心がけていこうと思います。

いつもなにげなくすごしていたけれど、火事の原因や、火事が起きやすい時期を調べてみたら、火事を起こさないためには、小さな心がけをすると良いことがわかりました。みんなで小さな心がけをして、火事がへるといいなと思います。



## 〔優秀賞〕

### 自分自身、みんなの命を守るため

東山代小学校 古子 葉那

私は、火災対策について調べました。調べることで、自分自身、みんなの命が守れます。私は、火災対策を三つ考えました。

一つ目は、「コンセント」についてです。電気コードやコンセントによる火災も多いです。そのため、定期的に点検するように心がけましょう。たとえば、電気コード、プラグ、コンセントが、家具等の下じきになっていないか、コンセントにほこりがたまっていないかなどです。定期的に点検をしていないと火災がおきてしまうので、点検はとても大切です。

二つ目は、「電子レンジ」についてです。電子レンジによる火災は、10年前とくらべて電子レンジによる火災件数は3倍にも上がっています。一番多いのは、電子レンジにアルミホイルを入れて火災がおきていることです。ひんぱんに使うものだからこそ、せつめい書などを見て、改めて正しい使い方をしましょう。三つ目は、「ストーブ」についてです。ストーブによる火災も

毎年多く発生し、死者も発生しています。発生の原因の多くは、「可燃物がストーブに接触する」で、ふとんやぎぶとん、いるいに着火するケースが多いです。そのため、ストーブの火災を防ぐポイントを知っておくとよいです。たとえば、周囲にもえやすいものを置かない。外出時やねる時は、必ずストーブを消す。ストーブの近くでせんたくものをかわかささない。などがあります。このようなことに気をつけて、正しい使い方をしましょう。

火災対策を調べたことで、火災がおきる理由はたくさんあり、いろんなケースがあることを学びました。これから私は、家に帰ってから、コンセントが家具などの下じきになっていないかなどを、調べてみようと思います。



## 〔優良賞〕

### 火事にそなえるために

牧島小学校 田中 一路

ぼくが通っている牧島小学校では、毎年、火災ひなん訓練を行っています。火事のこわさや、ひなんするときに大切なことについて伊万里消防署の方からたくさん教えていただいています。そこで、火事がおきたときに大切なことについて、自分なりに教えてもらったことをもとに考えてみました。

一つ目は、「火事がおきたら、早めにひなんすること」です。早めにひなんをしておけば、火が強くなっても、すぐに建物から出ることができます。そのためには、ひじょう口の位置をしっかりかくにんしておくことが大切だと思います。

二つ目に大切だと思うことは、「早めに消火活動を行うこと」です。そのためにも、消火器の位置を知っておくことも大切だと考えました。しかし、ひなん訓練のときの消防士の方の話によると、消火器を使つての消火はとてもあぶないので、まずは、大人に知らせることが大切だとおっしゃっていました。だから、もし、

火災にあったときは、すぐに近くの大人に知らせようと思いましたが。大きな声で「火事だー」と知らせることも消火活動の一つなのかもしれないと思いました。

これからも、火事から命を守るためにも、早めにひなんすることができるよう、ひなん訓練に真面目に取り組んでいこうと思えました。また、初めて行く場所などでも、ひじょう口や消火器の位置などをかくにんしておきたいです。とてもこわい火事。だからこそ自分がじゅんびしておけることはじゅんびしておくことが、一番大切だと思いました。



## 〔優良賞〕

### こわい火じ

大坪小学校 梶山 頼臣

火じになったら、こわいことがたくさんあります。ぼくが一ばんこわいと思うのは、たてものがこわれてしまって、多くの人が死んでしまうことです。そしてすむところがなくなってしまうです。もし家がこわれたり、だれか死んだりしたら、とてもかなしいです。火じでなくなるものは、お金やたべものなどいろいろあります。でも、一番かなしいのは、ぼくがだいじにしているものです。それは、おじいちゃんやおばあちゃんのかたみや、いままでの思い出の写真などです。思い出の場所もなくなってしまいます。

こんなこわい火じにならないためにぼくができることがたくさんあります。家で一番火じがおきるのは、キッチンです。料理をする時がおきやすいです。だから料理をして火をつけたら、ぜったい見ておきます。よそみをしたり、はなれたりしたら知らないうちに、料理がこげて、はねて火のこがまわりにとぶ

かもしれない。だから火は、ぜったいに見ておきます。お母さんにも、そのことを言います。お母さんが電話をするときは、ぼくがかわりに火をみておくこともあります。

もう一つ気をつけるのは、ストーブです。ストーブを使うときは、いろいろ気をつけることがあります。ストーブの周りには、物をおいてはいけません。せんとく物は、ストーブの上の方にかけてはいけません。とう油を入れるときは、かならずスイッチを切ってから入れます。ねるときや、家を出るときも、かならずスイッチを切っているか、かくにんをしないとけません。

このように、ぼくが気をつけられることはたくさんあります。お父さんやお母さんにも話して火じにならないようにしたいです。



## 〔優良賞〕

### たくさんの物をなくす火事

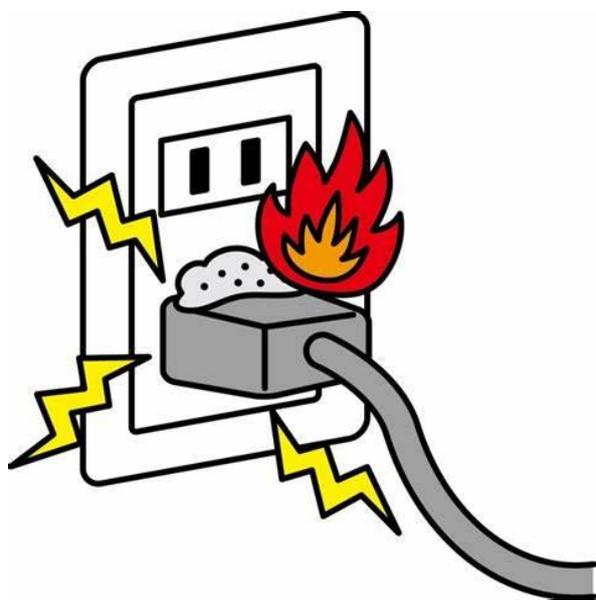
大坪小学校 田中 優羽

「伊万里市立花町で火事がありました。」テレビのアナウンスが流れました。それをおばあちゃんの家で見っていたぼくは、こう言いました。「ここも立花町だしこわいね。」その火事で、一人の人が亡くなっている。ぼくも、亡くなることの悲しさを知っているのでも「ひどい。」と思いました。しかも、火事は、いつでもどこで起こるか分からない。だから、防ぎたい。防がないと、また火事で人が亡くなってしまう。何度も何度も「死」という悲しさをせおうことになる。この世界の人にもそういうことが今からないためにぼくたちは、どうすればいいのか。「死」は、みんなせおうのがいやなはず。

ぼくは、電気機器の火事に注意するのが大切だと思います。火事の理由は、たばこが一位ですが、電気機器は、大ぼくはつ起こすきけんがあるからです。なので、電気機器の火事のたいさくをしようかいたします。まずは、コンセントから起こる火事です。

コンセントにほこりがたまって火事が起こる原因になります。だから、コンセント周りのほこりのそうじをこまめに行うといいと思います。ほかには、冷ぞう庫やテレビの後ろなどかくれているところもそうじしたり、タコ足配線をぜつ対にしないことなどが必要です。

このように、火事を起こさない対さくなどがたくさんあり、火事からあなたを守ってくれます。みなさんも、人を亡くならせしてしまうとてもこわい火事を、防ぐためにどんなことをすればいいか考えてみてください。



## 〔優良賞〕

### ぼくの地いきの消ぼう団

立花小学校 川崎 心翔

ぼくのおとうさんは地いきの消ぼう団で活どうしています。ぼくは消ぼう団は火事の時だけ活どうするとおもっていました。が地いきの行事ごとにいろいろな活どうをしていると知りました。それはぼくがはいっている子ども会でも火のとりあつかいをする行事は全て消ぼう団の方たちがみまもってくれています。それと火のとりあつかいにはかんけいがないような川の清そうにもたずさわっていることを知りました。それに冬の季節には消ぼう車でみまわりをしてくれます。なんで冬はみまわりをしているのかときいたら冬は空気がかんそうしていて火事になりやすいと知りました。それをきいてたしかにニュースで火事が起きたニュースを毎日のように見てこわいなとおもっていたらさいきん家の近くで火事がおきていておとうさんが出動していきました。ぼくはおとうさんが出動するのは初めてだったので心配でねれませんでした。火がちんかしておとうさんがかえって

きてほっとしましたが二次かさいがおきるかのうせいがあると聞いてそこでもしょうぼう団の方がしばらくたいききすることをきいて大へんなお仕事だなおもいました。毎日のようにサイレンがきこえて火事かなとびくびくしますが自分でもできることではじをふせげるように注意していこうとおもいました。毎年学校でおこなわれているひなんくんれんをしつかりきいてぼくも地いきのしょうぼう団の人のように人の役にたてる人になりたいです。しょうぼう団のしごとは大へんだとおもうけどこれからもぼくたちの地いきを守ってほしいです。



## 〔優良賞〕

### 火事を防ぐためにぼくにできること

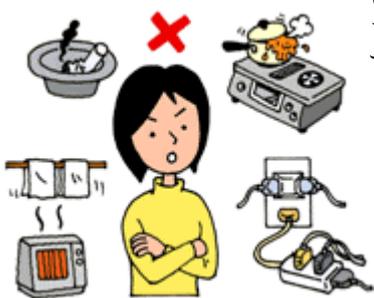
立花小学校 奥野 凜仁

火は、私たちの暮らしを便利に豊かにしてくれる、生活する上でなくてはならないものです。しかし、時には大切な家や人の命をうばってしまうきけんなものでもあります。ぼくは、どんなことが火事を引き起こすのかを知りたくて、火事の原因トップ5を調べてみました。

一位はたばこの火です。ぼくのお父さんはたばこを吸いますが、家の中ではなく外で吸うようにしているので大じょうぶだと思いました。二位は放火です。こんなひどいことをする人がいるなんてぼくは信じられません。続いて三位。うちはオール電化なので安心だと思っていたのですが、なんと三位は電気配線類でした。うちは電気をよく使うのでこわいなあと 생각합니다。さらに調べてみると、電気配線類の火災の原因の一つに半断線と  
いうのがあることがわかりました。これはコードの上に重い物をのせることでコードの線が切れることを言います。半断線の何が

いけないかという点と爆発のきけんがあるからです。この状態でドライヤーなどを使うとたくさん電気が流れてショートして爆発し、それがカーテンなどに燃え移って火事になることもあるそうです。ぼくは、これからはコードをていねいにあつかわないと、と思いました。そして四位が電化製品、五位がてんぷら油でした。

調べてみて分かったことは、家の中には火事の元になるものがたくさんあるということです。特に電気配線が原因で火災が起きることを初めて知り、火を使っていなくても火災は起きるということに驚きました。自分の家では火事は起きないとなんとなく思っていたからです。他にも、火事が起きた時にすばやく行動するために火災報知器を設置することが大切ということもわかりました。ぼくは、自分でもう一度家の中を点検し、火事につながるものはないか、電化製品のコードをかくにんしてみようと思います。そして、「火を使っていなくても火災は起こる」ということをお家の人にも伝えたいと思います。



## 〔優良賞〕

### 火事のおそろしさ

波多津小学校 野波 咲那

わたしは、学校で火災ひなん訓練をしています。そして、今週に火災ひなん訓練をします。そして、その時のやくそくは、おかしもで、それは、「お」は、おさないで、「か」は、かけない、「し」しゃべらないで、「も」は、もどらないです。これ以外にも、気をつけたいことがあると思うので、3つしようかいます。

一つ目は、コンセントをさしっぱなしで、間にホコリがたまり、火事になるきけんせいがあるということです。わすれがちなコンセントもきちんとさしているか見ておきたいです。

二つ目は、火遊びをしない事です。とくに気をつけているのは、ライターやマッチです。ライターやマッチを勝手に使うとお母さんにおこられます。なぜおこられるか考えた時に、きつと、すぐに手に取りやすくかん単に火がつけられるから、子どもが使うとあぶないからです。小さい子ほどきょう味がわくので、低学年の子に注意できるようにしたいです。

三つ目は、ガスコンロの消しわすれです。わたしの家はIHクッキングヒーターです。でも、わたしのおばあちゃん家は、ガスコンロもあります。特にガスコンロに火がついている時は、目をはなさない方がいいと思います。今までの火災ひなん訓練でも、火の消しわすれで火事になることを話されました。すぐに燃えうつるきけんせいがあるので、家族のためにも教えてあげたいと思います。

このように、わたしは火事がおきないように、今まで話したことを気をつけていきたいと思います。これからも、マッチやライターを使わなかったり、コンセントのさしっぱなし、コンロのつけっぱなしがないように、気にして生活していこうと思います。小さなゆだんで大きな火事になってしまうので、みんなの命を守るために気をつけていきます。



## 〔優良賞〕

### 防火についてぼくが考えたこと

二里小学校 佐藤 駿介

ぼくは、小さいころ消防士や消防団の仕事にあこがれていて、本やDVDで消防車の種類をおぼえたり、毎月一日と十五日に消防団の車が地いきを回るので、それを見るために家の前に出て楽しみに待ったりしていました。今回、このことを思いだすなかで、消防士や消防団の方々の活動には「防火」という大切な仕事があることが分かりました。そしてぼくの住んでいる所にもいろいろな「防火」のくふうがあることが分かったのでそれをしようかいたします。

まず一つ目は消火器です。これはだれもが知っているものだと思います。家庭やお店、工場など多くの場所にせっちしてあり、どんな人でもすぐに火を消すことができるようになっていっています。しかし、じっさい目の前で火事が起きると人はあわてて何をしたいか分からなくなります。そのためにあるのが消防くんれんです。学校ではあまりしなないかんですがほいくえんなど

ではやっているかもしれません。実際にぼくのかよっていたほいく園でもやっていました。消火器のあつかいがむずかしいので、日々、くんれんしているそうです。

二つ目は防火水そうです。防火水そうは、消防用の水をためておくための池のことです。使い方は水を防火水そうからポンプの力ですいあげて消ぼう車へはこんで放水します。また、その地下バージョンの消火せんもあります。しくみもほぼ同じで、水をすいあげて消防車へはこんで水をポンプの力で放水します。

「防火」というのは消防士、消防団の日々の努力にくわえて、地いきに住むぼくたちの日ごろの心がけが大切なんだと感じました。

これからも家の人といっしょに、他にも防火に関することについておぼえていきたいと思っています。



## 〔優良賞〕

### 消し忘れでおこる火事

東山代小学校 武藤 麗水

私のおばあちゃんは、ときどき鍋などの火を消し忘れることがあります。なので、お母さんは、「火は絶対消してね。」といつもいっています。

それに、私の家は冬にストーブをつけます。でも家をでるときは必ず消しています。そして、火事の原因はコンロの消し忘れ、タバコの火の消し忘れなど消し忘れが多いです。なぜ消し忘れるのか、それは電話がなったり、子供の世話をしているときなど揚げ物をしているときに待つ間テレビをみたりスマホを触っている間になったりすることが多いです。火を使っている最中は、電話が鳴ったらほかの人にでもらうなどをしたほうがいいです。消し忘れが多い家庭は、小さな子供がいたり頻繁に電話がかかってくる家が多いです。消し忘れが心配な人は、火を使っていたら目をはなさない、電話が鳴ったらほかの人に代わってもらい、必ず火を消すと火事になることは少ないと思います。

火は日常生活では毎日使うものなので、気を付けていきたいし、学校の避難訓練も家でもできるようにしていきたいです。そして、消し忘れをなくしていきたいし、私も火を安全に使えるようになりたいです。これからは毎日火に気を付けていきたいし、おばあちゃんにも「火災は消し忘れでなるんだよ」と伝えたいです。やっぱり1番は火を消し忘れないことだなと思いました。



## 〔優良賞〕

### ぼくのかっこいいおとうさん

山代東小学校 田中 淳也

ぼくのお父さんは、しょうぼうだんに入っています。ぼくのおとうさんは、主にしょうぼうしさんが火をけた時、また火がでないかみまもる人です。ぼくのおとうさんは、ゆうかんで、力強い人です。火がでないかみているというのは、ぼくはこわいと思います。それをするというのは、すごいと思います。ぼくがしようとする、こわくて、ふるえあがると思います。

ぼくのお父さんは、町の安全を守る、ゆうかんな、けんしみたいで、とてもかっこいいです。そんなお父さんのむすこで、とてもほこらしくおもえます。

ある日の9時ごろ、ぼくがテレビをみていると、ぼくの家の近くに、大きなサイレンの音がなりひびきました。その音がやんだ5分後ぐらいに、お父さんがげんばにいきました。きつとこわかったと思います。そんなことをお父さんはひきうけているので、とてもかっこいいなと思いました。

もし、ぼくがお父さんのやくわりをするとなったら、ぼくはふるえあがって、体がこわさで、うごかなくなりそうです。そして、いくのをためらって、しごとにならないと思いました。そんな仕事をひきうけているお父さんは、なんともいいますが、すぐかっこよくて、お父さんのむすことして、とてもほこらしいです。

ぼくもしょうらいは、お父さんみたいに、とてもかっこよく、ゆうかんなしょうぼうだんになりたいです。そして、みんなの命をすくいたいです。

そして、火事のない、安心、安全な山代町にみんなときょう力して、作っていききたいです。



## 〔優良賞〕

### 「火の用心!!」

山代西小学校 高木 聖

ぼくは、冬休みお母さんとこの作文を書くためお話をしました。すると、自分ちのおばあちゃんの実家が、約二十年前の寒い冬の夜、火事になって全焼した事があったのを教えてくれました。

ひいおばあちゃんの家は、道側にあったからねむれないということで、二まいガラスで防音対さくをしている家でした。ある日の深夜ねている時に、トラックの男性が火が出ているのに気付いて車を止めて、ガラスをドンドンといっぱいたたいてくれたそうです。防音対さくをしているガラスまどだったので、その人は、かなり強くだたいてくれたと思います。その人が起こしてくれたので、ひいおばあちゃんとおじさんは、にげることができました。火事の元は、お風呂のえんとつのホコリでした。お風呂をわかした熱が、えんとつのホコリにうつって出火したそうです。トラックの男性のおかげで、ぼくのひいおばあちゃんとおじさんは、生きれたと思います。本当に、何でもなくすごしていても

火事は起こる事があるし、いっしゅんで毎日の生活が変わるのが、本当につらいなあとお母さんの話を聞きながら、つくづく思いました。

このことから、火事を起こさないのはもちろん、火遊びをしないなど自分でできる防火をしていくことが大切だと思います。それでも、もしも家が火事になったら、学校のひなんくん練を思い出して、すばやく火元からにげるといいう行動ができるようにしたいと思います。そのためにもこれからは、ひなん訓練に真げんに取り組みます。そして、家や学校が火事にならないように、自分でできる防火につとめていきたいと思っています。





防火ポスター最優秀賞

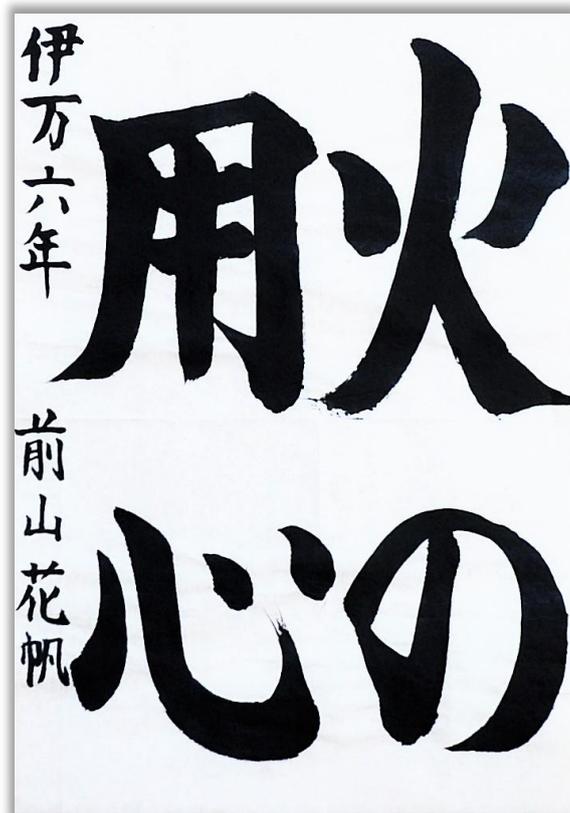
伊万里小学校 吉永 ゆら さんの作品

(令和6年度は伊万里市内の10校114名の応募がありました)

令和6年度少年消防防火書道大会最優秀賞

伊万里小学校 前山 花帆 さんの作品

(令和6年度は伊万里市内の12校398名の応募がありました)



主催：伊万里・有田地区幼少年女性防火委員会

協賛：伊万里市防火協会

編集：伊万里・有田消防組合 伊万里消防署 消防3課 予防係

【問い合わせ】

伊万里・有田消防組合

伊万里消防署 消防3課 予防係

〒848-0027

伊万里市立花町1355-3